

学校名	新座市立新座小学校
実施日	令和4年1月19日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「**独自**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、ゴール(身に付けさせたい力)を明確にし、主体的・協働的に課題解決を図る授業づくりに取り組んでいる。(独自)※ 常に前進	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、授業改善を学校経営の柱とした結果、授業づくりが教員の自己評価シートの取り組むべき事項に位置づけ、定期的に達成度の見届けを行うことができている。校内研修においても、2年目の年度となり、研修に深化が見られる。 実態を踏まえた学力向上プランを改善し、授業スタイルの統一化を図り、日々の授業における毎時間の課題提示の徹底を図っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校長先生のリーダーシップの下、校内研修や日々の授業改善を通して、充実した授業が実践されている。児童アンケートでもよい結果が得られているのは素晴らしい。
2	学校は、一人一人がかけがえのない存在であることを理解させ、自分を大切にしながら、よりよい生き方を求めて生活するよう指導している。(独自)※ 温かい人間関係	A	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業を要に、道徳心の向上を図っている。教材を離れて自分事として考える時間の確保を意識した授業展開が定着しつつある。 キャリアパスポートの取組も定着し、学校行事との連携のもと、子供自身のより深い自己理解につながっている。 校長講話において、「温かな」をキーワードとした話を年間を通して行っている。また、校長室だよりにおいても、定期的に触れるようにしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「温かな」というわかりやすい言葉をキーワードとしたことで様々な場面を使って浸透することができていた。 これからの世の中を想像したとき、とても大切な教育内容であるので、引き続き取り組んでいただきたい。
3	学校は、清掃指導や掲示教育をとおして、学ぶ意欲がわくきれいな教室環境を整備している。(独自)※ 美しい環境	B	<ul style="list-style-type: none"> おやじの会、保護者の協力を得て、定期的に廊下清掃をしている。また、PTA活動として、トイレ清掃を行っていただき、感謝している。 水曜日に掃除を行わない日を設けているが、その日の教室環境が課題となっている。ごみを落とさない、落ちていたら拾う行動を推進したい。 少ない児童数で清掃を行っているため、なかなか全ての清掃範囲まで見届けることが難しい。今後も清掃箇所、配置する人数については、検討が必要である。(特別教室の清掃回数等) 掲示物については、動きのあるものをテーマに掲示教育を推進している。今後も、昇降口の掲示物等については、多くの児童の目につく場所なので、より効果的に活用を図りたいと考えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 少ない児童数、少ない教職員数でよくやっている。施設設備は古くても、隅々まで目の届いた美しい環境を今後も維持してほしい。

評価項目「**組織運営**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌の組織であるAB部会が、定期的な会議として位置付けられ、突発的な会議がなくなり、計画的な組織運営となってきた。 行事の関係で、部会によって偏りが生まれ、仕事量に軽重が生まれている。時期的なものもあるが、少ない人数での部会運営であり、主任のリーダーシップによるところが大きい。若手世代の育成は急務である。 担当割りや役割分担がきちんと決まっており、成果につながっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 少ない人数の中で、会議等を工夫し計画的な組織運営になっている。教職員の人数が少なく、4月の人事異動で毎年入れ替わりが激しい中、よく機能している。今後も働き方改革を進めていただきたい。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の反省を基に、学年会で検討を図り、より具体策とするよう、取り組んできた結果、学校経営への参画意識の醸成が図れた。 昨年度の反省を生かした、職員会議での提案も位置づいてきている。 学校経営方針に基づき、自己評価シートを作成して学級経営を行っているが、重点を明確にした結果、意識の高まりも見られている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校長先生が教職員をよく見て、一人一人の頑張りを認めている。そのため信頼関係が構築され、経営方針が浸透しているのではないかと、改善策が次々に打ち出され、学校をよくしているという雰囲気を感じることができる。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に危機管理マニュアルの確認をしたことで、危機管理意識の高まりが見られた。学校行事として行う避難訓練等を通して、マニュアルを用いた確認、反省を毎回位置付けて行うことで、訓練における避難時の行動もスムーズになってきている。よりポイントを絞った内容をなすよう、さらなる改善を図りたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新座小地域の特性である水防に関しても法律が改正されたことを受け、素早く対応している。高いところへ逃げるということを児童に身に付けさせていることは素晴らしいことである。 訓練に終わりはないので、様々な想定での訓練をお願いしたい。

評価項目「**学力向上**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校課題研究で算数を通して学習ルールがより具体的になってきた。学び方のイメージの共有化が図れたことにより、授業に対する児童の集中力にも高まりが見られている。 人の入れ替わりが多くなっており、年度当初に「新座スタイル」を徹底すること、経験値によらない授業スタイルの確立が課題である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教員が「新座スタイル」が定着してきていることを実感している点を評価したい。また、授業が楽しいと感じている児童が多く、教師が工夫して取り組んでいることがわかる
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に言語活動の充実についての記述を明記して、全教科、全学年で取り組んでいる。 授業において、意図的かつ計画的に意味のある話し合い活動を取り入れることで、児童の思考力・判断力・表現力等を育んでいきたい。 タブレット機器を用いた取組をより充実させる必要がある。よりよい活用法について、情報交換する等、研修などで学ぶ機会を設けたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研修等を通して学校全体で協力し、児童に力をつけていこうという姿勢は素晴らしい。児童と教員との信頼関係が構築されているので、結果はすぐでないかもしれないが、今の努力を継続することを期待する。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領で提唱されている学びの3要素を踏まえた学習については、まだまだ開発の余地はある。研修教科である算数を中心に、研修会を活性化し、内容の理解を深めていきたいと考える。 学力や能力の低い児童の指導を個別に行っているが、不十分なところもあり、成果が出ていない。より個に応じた指導の意識を高めていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 数値で見ることで結果だけにとらわれずに、引き続き研修を通して児童に様々な力を身につけてほしい。日々の教職員の努力を高く評価したい。

10	学校は、英語(英会話)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	・担任と英会話講師が打ち合わせを密にとり、1時間1時間の授業を充実させている。 ・授業以外の面においても、国際交流が図られている。(給食や今月の歌など)	A	・低学年において英語に触れる時間は減ったかもしれないが、授業以外の場面でチャンスを作り、国際理解教育を縮小させることなく継続しているところは素晴らしい。地域的にも多くの国の方々が生活しているところなので、その活用についても考えてみてはどうだろうか。
----	---	---	---	---	--

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	・あいさつは、本校の年間を通した生活目標である。昨年度よりも具体的な取組が増え、児童の成長を感じている。また、「です」「ます」をつけて話せるように、やり直し等をしているが、学校だけでは難しい部分がある。今後も家庭との連携も含め、粘り強く指導していく。 ・学校内では、あいさつは進んでできている児童が増えている。しかし、保護者アンケートからは、課題であることがうかがえる。学校内での取組を積極的に発信し、地域への啓発を行っていき、地域と共に児童の育成を図りたいと考える。	A	・気持ちのよい挨拶をしてくれる児童が増えている。反面、知らない人には挨拶はしない(関わらない)という児童がいることも事実である。今後も、学校、保護者、地域と一体となって取り組む課題であるので、学校がリーダシップを持って保護者や地域に働きかけてほしい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	A	・いじめアンケートを、元重には月1回、保護者には学期に1回行っている。 ・いじめや不登校につながるような事案があった場合は、すぐに管理職に相談し、迅速かつ組織的に対応することで、重大案件につながるようなものはない。 ・コロナ禍により、特別活動の取組に制限があることが、歯がゆい部分である。可能な形で本校の特色でもある縦割り活動を生かした環境整備に努めている。	A	・いじめアンケートや日々の教職員の観察により、早期発見し、生徒指導上の問題に取り組んでいることがよくわかる。コロナ禍が続くことで、心が病んでくる子が増えるかもしれない。引き続き児童一人一人をよく見てほしい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	・教育公務員としての自覚と使命感を高めながら、教職員自ら規範意識を高めて指導にあたっている。 ・清掃活動では、時間になったら、全ての教職員が児童と共に清掃を行い、率先垂範ができている。 ・人の入れ替わりにより、個人により意識に開きが見られる。「新座スタイル」を基本とし、どの教職員も同じ対応ができるよう、方針の一本化を徹底するかことが大切である。	A	・教育公務員として自覚を持って日々の指導にあたっている教職員がほとんどである。移動してきた教職員も「新座スタイル」という基本があるので共通指導ができている。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	A	・マラソンキャンペーンなどがあると、積極的に外に出ているが、終わると出なくなってしまう。継続的に運動に親しむように、意識の向上を図りたい。 ・コロナ禍により、運動に制限があることは残念なことである。しかし、その中でも学習単元を入れ替えたり、運動内容の工夫を行ったりすることにより、意欲的に運動に取り組ませている。今後も体育部会が、行事の確認にとどまらずに、学習についても検討できる部会としていきたい。 ・青空タイム(全員参加の外遊び)の音楽が流れることで、外で遊ぶ意識ができるようになってきた。(毎週木曜日の20分休み)	A	・市内駅伝大会に参加するなど児童の発表の場をつくり、体力向上の意識を高めている。計画的に体を動かす時間を作り全校で取り組んでいる。新体力テストを活用し、学校や個々の児童の課題を明確にしている。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	A	・栄養教諭が配属となり、授業にも関わりながら積極的に活用している。 ・栄養教諭が食育の授業をしたり、給食中にクラスを回ったりすることで、各学年、各教科、給食の時間、掲示物など食育が充実している。	A	・食育への取組で今まで以上に給食を楽しみにしている子が増えたようである。中には給食が一日の食事の中心となっている子もいると思われる。継続して取り組んでいただきたい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	A	・学校応援団コーディネーターの方の働きかけにより、地域住民との密接な関係ができており、情報が入りやすくなっている。 ・校長室の扉を常時開放していることにより、多くの方々が相談に来るようになってきている。また、お問合せいただいた内容については、関係部署に投げかけ、スピード感をもって対応をしている。	A	・学校の対応が早い。何か情報を学校に投げかけるとすぐに対応してくれる。そのため、信頼関係が構築され、好循環となっている。多くの子供たちが救われているように感じる。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	・コロナ禍により、学校のホームページでの情報発信に対する需要が高まっている。今後も、既存のものにとらわれないよう、意識を高くもちながら、毎日更新を目標に取り組んでいきたい。 ・今後は、情報提供だけでなく、行事ごとのアンケートや、学校評価としてのアンケートによる意見聴取を行い、双方向的な連携をより密にしたい。	A	・コロナ禍で保護者や地域の住民が学校に足を運ぶことが少ない中、ホームページも充実し多くの情報発信をしているので、だいたい様子分かる。 ・保護者アンケートなどでは、紙ベースからネットを使った回収方法へ移行する予定と言うことで楽しみである。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	A	・学習支援、読み聞かせ、花植えボランティアなど、多くの方々にご協力いただき、教育効果を高めている。保護者、地域の皆さんに支えられていることを日々実感している。 ・応援団活動については、まだまだ改善の余地はあると考えている。地域の教育力活用のため、あらゆる手段を用いて、情報発信、連携協力を図っていきたい。	A	・応援団もスクールメールに登録でき、学校との連絡が密となり、活動が活性化されている。応援団メンバーもやりがいを感じ、子供のためなら学校のためならと協力している。